

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果



ひとが咲くまち。
ひたちなか

ひたちなか市教育委員会事務局指導課

目 次

1	全国学力・学習状況調査平均正答率（茨城県・全国）	1
2	児童生徒質問紙調査	6 ～ 10
3	学校質問紙調査	11 ～ 13
4	小学校 国語	14 ～ 16
6	小学校 算数	17 ～ 19
6	小学校 理科	20 ～ 22
7	中学校 国語	23 ～ 25
8	中学校 数学	26 ～ 29
9	中学校 理科	30 ～ 32

令和7年度全国学力・学習状況調査<国・数・理>

1 平均正答率（％）

学校種	小 学 校			中 学 校		
教科	国語	算数	理科	国語	数学	理科
茨城県	67	57	59	55	50	508
全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

※中学校理科は、IRTスコア集計値

○ 本市全体の平均正答率は、小学校国語、算数、理科、中学校国語、理科で全国を上回っている。中学校数学で全国を大きく上回っている。

2 小学校国語

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80％以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
2 二	【書くこと】図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる	82.0%	81.8%
2 四ア	【言葉の特徴や使い方に関する事項】学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる	80.1%	81.6%
3 一	【我が国の言語文化に関する事項】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる	80.7%	81.2%
3 二 (1)	【読むこと】時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる	81.4%	81.6%

(2) 課題の見られた設問（正答率50％以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
3 三 (2)	【読むこと】目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる	39.9%	40.8%

3 小学校算数

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80％以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
3 (4)	【数と計算】異分母の分数の加法の計算をすることができる	80.8%	81.3%
4 (1)	【数と計算】伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる	81.0%	82.8%

(2) 課題の見られた設問（正答率50％以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1 (2)	【データの活用】目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる	31.7%	31.0%

令和7年度全国学力・学習状況調査<国・数・理>

2 (4)	【図形】基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる	38.0%	37.0%
3 (2)	【数と計算】分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる	23.7%	23.0%
3 (3)	【数と計算】数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる	33.1%	35.0%
4 (2)	【数と計算、測定、変化と関係、データの活用】伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる	47.1%	48.7%
4 (4)	【変化と関係】「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる	38.6%	40.9%

4 小学校理科

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1 (1)	【「地球」領域】赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる	78.4%	79.5%
2 (3)	【「エネルギー」領域】電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている	80.2%	78.0%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
2 (1)	【「エネルギー、粒子」領域】身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている	12.7%	10.6%
2 (2)	【「エネルギー」領域】電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる	39.9%	41.2%
3 (4)	【「生命」領域】レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる	33.6%	29.9%

令和7年度全国学力・学習状況調査<国・数・理>

5 中学校国語

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1 二	【書くこと】目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる	83.2%	82.5%
3 二	【読むこと】文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる	89.5%	89.9%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1 一	【言葉の特徴や使い方に関する事項】文脈に即して漢字を正しく使うことができる	43.5%	44.0%
1 四	【書くこと】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる	35.0%	31.0%
2 一	【話すこと・聞くこと】資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる	42.2%	38.1%
2 四	【話すこと・聞くこと】資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる	27.8%	23.2%
3 四	【読むこと】文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる	15.8%	17.1%
4 二	【書くこと】読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる	27.2%	30.1%

6 中学校数学

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
7 (1)	【データの活用】必ず起こる事柄の確率について理解している	76.8%	77.4%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
4	【関数】一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる	38.5%	34.7%
6 (2)	【数と式】式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる	26.4%	25.7%
8 (2)	【関数】事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	38.2%	38.0%
9 (2)	【図形】統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる	33.2%	36.3%
9 (3)	【図形】ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる	30.8%	33.2%

令和7年度全国学力・学習状況調査<国・数・理>

7 中学校理科

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1（6） 難易度 3	【「粒子」領域】科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる	81.9%	79.4%
3（2） 難易度 2	【「エネルギー」領域】身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いている	83.5%	85.2%
4（2） 難易度 2	【「粒子」領域】火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている	92.0%	92.3%
5（1） 難易度 1	【「粒子」領域】加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている	92.4%	93.0%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1（2） 難易度 5	【「粒子」領域】身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる	52.5%	46.2%
1（3） 難易度 5	【「地球」領域】露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できる	37.6%	36.2%
1（4） 難易度 5	【「生命」領域】水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている	29.5%	29.7%
1（5） 難易度 4	【「粒子」領域】塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている	43.0%	44.9%
3（1） 難易度 5	【「エネルギー」領域】仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができる	35.0%	34.9%

令和7年度全国学力・学習状況調査<国・数・理>

5 (2) 難易度 4	【「粒子」領域】化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる	33.6%	35.6%
6 (2) 難易度 4	【「生命」領域】スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できる	47.5%	41.9%
7 (1) 難易度 5	【「生命」領域】小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができる	34.9%	34.8%
8 (1) 難易度 4	【「地球」領域】地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できる	43.7%	42.2%
8 (2) 難易度 5	【「地球」領域】大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できる	18.3%	18.1%
中学校理科は、CBT（コンピュータ使用型調査）、IRT（項目反応理論）を用いて実施。			

令和7年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

1 「生活面に関わる内容」

(1) <基本的生活習慣、規範意識>

1 「朝食を毎日食べているか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか。」という質問に対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学校(以下児童とする)、中学校(以下生徒とする)とも全国より上回っている。「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか、起きているか」については、児童で全国より大きく上回っている。生徒で全国より上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
朝食を毎日食べている。(小・中1)	R7	95.3	93.7	93.7	93.1	91.8	91.2
	R6	94.7	93.7	93.7	93.9	91.7	91.2
	R5	95.8	94.1	93.9	92.7	91.9	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 (小・中2)	R7	85.1	83.0	81.9	83.2	81.2	81.0
	R6	86.6	84.0	82.9	84.8	81.7	80.7
	R5	86.1	81.7	81.0	80.9	78.8	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている。 (小・中3)	R7	94.7	91.9	91.0	93.4	92.8	92.6
	R6	93.9	92.3	91.6	94.7	92.9	92.5
	R5	93.1	91.1	90.5	91.6	92.0	91.3

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(2) <自尊感情、将来に関する意識>

1 自分自身に関する質問について

「自分には、よいところがあるか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、国の平均を上回っている。自己肯定感が高い児童生徒が多いといえる。

2 いじめに関する質問について

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問に対して「当てはまる」と明確に回答した児童は82.9%、生徒は80.3%と、国の平均を上回っている。

3 援助希求行動について

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問に対して、肯定的に回答した児童は、国の平均と同じで、生徒は上回っている。昨年度と比較すると、児童、生徒とも上回っている。児童生徒のこうした被援助指向性がどのように変化していくか、今後も注視していく必要がある。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
自分には、よいところがあると思う。 (小・中5)	R7	88.2	86.5	86.9	87.2	85.8	86.2
	R6	85.4	82.7	84.1	85.0	82.7	83.3
	R5	85.8	82.1	83.5	79.3	78.5	80.0
先生は、あなたのよいところを認めてく れていると思う。(小・中6)	R7	93.3	91.7	92.2	93.2	92.5	92.2
	R6	92.5	89.1	89.9	92.5	90.8	90.4
	R5	89.9	88.6	89.8	87.8	86.9	87.3

令和7年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

将来の夢や目標を持っている。(小・中7)	R7	85.2	85.2	83.1	69.7	69.3	67.5
	R6	85.8	84.7	82.4	66.3	68.0	66.3
	R5	84.9	83.3	81.5	69.5	68.0	66.3
人が困っているときは、進んで助けている。(小・中8)	R7	94.4	94.2	93.7	92.5	91.1	90.9
	R6	94.9	93.1	92.7	91.7	90.3	90.1
	R5	93.0	91.8	91.6	89.3	88.2	88.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(小・中9)	R7	98.0	97.4	97.2	96.7	96.3	95.9
	R6	98.0	97.1	96.7	96.7	96.1	95.7
	R5	97.6	97.0	96.9	96.0	95.5	95.5
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(小・中10)	R7	70.6	70.1	70.6	74.9	71.9	73.2
	R6	69.1	66.8	67.1	70.5	65.1	67.5
	R5	71.1	66.8	68.5	69.1	64.0	66.4
人の役に立つ人間になりたい。(小・中11)	R7	96.8	96.0	96.4	97.1	97.0	96.6
	R6	96.7	96.0	95.9	96.5	95.4	95.2
	R5	96.3	95.6	95.9	95.0	94.6	94.6

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(3) その他

1 魅力ある学校に関して

・「学校に行くのは楽しいか。」という質問に対し、児童生徒ともに、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と比較して大きく上回っている。

・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童の割合は、全国比較して大きく上回っている。生徒の割合も上回っている。

・「友達関係に満足していますか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と比較して上回っている。学校や友人に対して、肯定的に捉えている児童生徒が多い。

2 ウェルビーイングに関して

昨年度より「幸せな気持ちになることはどれくらいあるか。」という設問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国比較して上回っている。昨年度と比較しても上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
学校に行くのは楽しいと思う。(小・中12)	R7	91.6	87.8	86.5	89.2	86.3	86.1
	R6	89.5	86.6	84.8	86.2	83.9	83.8
	R5	89.9	86.5	85.3	82.8	81.5	81.8
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(小・中13)	R7	83.5	79.5	78.1	80.8	79.0	79.2
	R6	83.0	77.7	75.8	80.7	76.1	76.2
	R5	85.4	77.9	76.5	79.6	77.2	77.6
友達関係に満足している。(小・中14)	R7	94.5	92.7	91.7	91.8	91.4	91.4
	R6	93.7	92.1	91.1	92.7	90.6	90.1
	R5	93.1	91.1	90.3	89.2	88.9	88.7
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(小・中15)	R7	95.1	93	93	92.2	91.5	91.6
	R6	92.7	91.4	91.7	91.1	89.4	89.8
	R5	92.9	90.8	91	85.9	86.3	86.8

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和7年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

2 「学習面に関わる内容」

(1) <学習に対する関心・意欲・態度>

1 各教科の興味関心、理解について

「国語や算数・数学の勉強が好き。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較し上回っている。

「国語や算数・数学の授業内容がよくわかる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較し大きく上回っている。

2 ICT活用について

「昨年までの授業でコンピュータなどのICTを週3回以上使用した児童生徒の割合は、全国と比較して上回っている。

PC・タブレットなどのICT機器で、「文書を作成することができると思う」「情報を整理することができると思う。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して上回っている。また、「学校のプレゼンテーションを作成することができると思う。」という質問では、全国と比較して大きく上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
国語の勉強が好きだ。(小・中45)	R7	62.9	60.7	58.3	58.2	60.2	57.9
	R6	71.3	64.0	62.0	65.5	66.1	64.3
	R5	70.6	63.7	61.5	66.7	64.3	61.4
国語の授業の内容がよく分かる。(小・中46)	R7	88.1	84.4	82.8	82.8	80.2	77.0
	R6	92.2	87.6	86.3	89.9	85.4	82.7
	R5	90.9	86.8	85.7	85.2	83.5	80.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中47)	R7	92.6	91.0	90.4	89.4	88.9	88.3
	R6	95.6	94.2	93.2	93.2	91.4	90.6
	R5	94.9	93.1	92.8	89.8	89.0	88.7
算数・数学の勉強が好きだ。(小・中53)	R7	62.3	58.0	57.9	55.3	53.6	53.8
	R6	65.0	60.9	61.0	56.8	55.0	57.2
	R5	66.4	61.1	61.4	56.6	56.4	56.7
算数・数学の授業の内容がよく分かる。(小・中54)	R7	84.5	78.8	78.3	77.6	70.4	70.3
	R6	88.3	83.0	82.1	80.8	74.7	75.7
	R5	87.5	81.6	81.2	79.7	73.9	73.3
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中55)	R7	91.7	91.6	91.6	77.5	76.4	75.2
	R6	95.2	94.6	94.1	82.0	79.9	78.5
	R5	87.5	81.6	81.2	80.1	80.4	75.8
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。(小・中56) R5は設問なし	R7	85.1	84.0	83.3	61.3	58.9	57.9
	R6	84.8	79.6	77.9	58.1	57.4	57.2
	R5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。(小・中57)R5は設問なし	R7	82.9	82.6	82.3	80.3	76.6	76.2
	R6	88.0	83.7	83.3	80.5	78.3	78.1
	R5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
昨年度までの授業でコンピュータなどのICTを週3回以上使用した。(小・中28)	R7	74.0	72.7	71.7	92.3	86.7	76.5
	R6	60.2	59.9	59.5	85.2	77.9	64.4
	R5	64.0	64.0	62.4	83.3	78.4	61.1

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和7年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

PC・タブレットなどのICT機器で (R7新設)							
文章を作成することができると思う。(小・中29-1)	R7	83.0	81.2	81.8	88.5	85.5	83.6
情報を整理することができると思う。(小・中29-3)	R7	70.7	68.8	69.3	71.5	66.4	63.3
学校のプレゼンテーションを作成することができると思う。(小・中29-4)	R7	82.1	79.2	76.7	84.6	80.4	76.6

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(2) 学び方(主体的・対話的で深い学び)に関する内容

1 学びについて

昨年までの授業で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」、「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較し大きく上回っている。

2 総合的な学習の時間について

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較し大きく上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
昨年までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか(小・中31)	R7	69.1	68.6	68.6	67.3	62.5	63.0
	R6	70.8	65.8	67.6	66.9	63.6	64.8
	R5	66.3	61.8	63.7	66.1	60.5	62.1
昨年までの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。(小・中32)	R7	83.4	81.1	80.3	81.3	79.3	77.7
	R6	86.8	83.1	81.9	83.7	80.9	80.3
	R5	86.1	80.6	78.8	84.2	81.4	79.2
昨年までの授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。(小・中33)	R7	79.9	78.9	77.8	74.6	73.3	70.6
	R6	85.1	81.5	79.6	81.3	77.1	75.4
	R5	82.9	76.7	74.4	77.3	72.6	69.1
昨年までの授業で、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。(小・中34)	R7	88.0	84.8	83.4	85.2	80.6	79.3
	R6	89.8	85.8	84.3	82.6	81.4	80.9
	R5	88.7	84.1	82.9	80.0	75.5	74.9
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりできているか。(小・中35)	R7	86.5	85.0	84.9	86.2	84.8	84.7
	R6	91.6	87.1	86.3	90.3	86.9	86.1
	R5	84.7	80.7	81.8	81.4	78.6	79.7

令和7年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか。(小・中36)	R7	83.3	80.2	79.4	76.5	74.6	73.4
	R6	87.8	82.8	80.8	81.2	78.2	77.9
	R5	85.7	78.7	77.4	75.9	71.6	69.2
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(小・中40)	R7	85.6	82.8	82.3	84.1	80.8	79.5
	R6	86.0	82.2	81.3	88.6	83.0	82.2
	R5	83.2	76.1	74.8	82.5	75.7	72.6

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(3) 話し合い活動に関する内容

1 話し合い活動について

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国よりも大きく上回っている。

2 学級活動について

「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答している回答した児童割合は、全国より上回っている。生徒の割合は大きく上回っている。

3 道徳の授業について

「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか。」という質問に対し、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国より上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。(小・中41)	R7	87.3	84.2	83.3	89.9	86.9	84.3
	R6	91.5	86.3	84.2	90.4	88.3	86.3
	R5	84.2	79.3	77.2	84.2	81.0	77.9
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(小・中42)	R7	83.0	81.3	80.8	82.8	79.2	77.3
	R6	88.8	83.6	82.5	85.8	81.8	80.6
	R5	82.6	77.8	75.7	78.8	73.6	71.6
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(小・中43)	R7	89.4	88.6	88.0	93.9	91.6	91.5
	R6	92.0	89.1	88.2	93.5	92.4	91.7
	R5	89.3	84.9	83.6	89.9	86.8	86.3

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和7年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

1 ICTを活用した学習状況				小・中学校の割合（％）			
質問項目（ ）は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度に、大型提示装置(プロジェクタ、電子黒板等)のICTを活用した授業を、ほぼ毎日実施した。(小・中55)	R7	100.0	90.6	81.2	87.5	93.0	76.8
	R6	88.9	85.1	76.0	100.0	86.8	74.6
	R5	83.3	80.3	72.7	100.0	87.6	71.8
前年度までに、一人一人に配備されたタブレット等のICT機器を活用した授業を、ほぼ毎日実施した。(小・中58)	R7	100.0	92.6	84.8	100.0	95.7	82.8
	R6	77.8	74.9	69.0	87.5	81.7	67.5
	R5	88.9	73.3	65.2	75.0	83.3	62.6
自分で調べる場面では、児童生徒一人一人に配備されたICT機器を週3回以上使用した。(小・中59)	R7	77.8	80.5	72.9	62.5	86.0	71.2
	R6	77.7	84.0	76.6	75.0	83.8	70.4
	R5	83.3	77.0	70.0	100.0	85.8	64.6
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器を週3回以上使用した。(小・中60)	R7	50.0	59.5	52.2	25.0	69.3	52.3
	R6	83.4	62.4	55.1	50.0	68.5	51.9
	R5	44.4	52.2	45.8	62.5	60.1	44.2
教職員と児童生徒がやりとりをする場面では、ICT機器を週3回以上使用した。(小・中61)	R7	61.1	69.8	61.4	62.5	68.9	55.9
	R6	83.3	66.1	59.7	62.5	72.8	57.4
	R5	33.4	56.9	53.1	62.5	62.6	48.7
児童生徒同士がやりとりをする場面で、ICT機器を週3回以上使用した。(小・中62)	R7	33.3	53.9	46.3	62.5	55.3	39.3
	R6	55.6	54.1	45.0	75.0	60.4	41.1
	R5	33.4	43.1	40.0	62.5	49.8	33.7
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレット等を週3回以上使用した。(小・中63)	R7	38.9	58.8	51.0	37.5	54.8	41.2
	R6	72.2	60.6	52.8	62.5	54.1	42.2
	R5	33.3	52.3	45.0	50.0	51.1	35.7
タブレット端末をどの程度家庭で利用できるようにしていたか。「毎日持ち帰って、毎日・時々利用とした」(小・中66)	R7	22.3	50.8	40.2	37.5	70.6	49.5
	R6	5.6	46.5	36.2	37.5	69.8	45.5
	R5	0.0	42.7	32.5	37.5	64.4	40.9
PC・タブレット端末を、不登校児童に対する学習活動等の支援に週3回以上使用した。(小・中67-1)	R7	44.4	26.4	24.2	50.0	46.5	39.3
	R6	38.9	31.3	26.9	62.5	55.4	38.5
	R5	16.7	31.7	28.7	62.5	54.1	38.1

令和7年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

2 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況					小・中学校の割合（％）		
質問項目（ ）は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて月に数回程度話し合うことを行った。(小・中11)	R7	83.4	86.1	79.1	62.5	78.5	64.9
	R6	94.4	85.6	78.9	87.5	74.5	64.7
	R5	61.1	80.5	76.5	37.5	73.8	61.4
教員が学級の問題を抱えている場合、月に数回程度ともに問題解決に当たった。(小・中12)	R7	94.4	92.9	88.5	75.0	86.4	78.0
	R6	100.0	94.5	87.5	87.5	87.3	77.3
	R5	77.8	89.4	86.7	62.5	87.1	75.3
ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取入れている。(小・中13)	R7	44.4	39.6	34.7	25.0	43.0	32.7
	R6	61.1	41.2	32.8	37.5	41.3	28.8
	R5	44.4	38.0	28.9	12.5	38.2	26.9
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実践し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルがよく確立している。(小・中15)	R7	50.0	56.6	44.3	62.5	52.2	40.1
	R6	61.1	53.0	40.4	100.0	55.7	40.5
	R5	38.9	49.7	39.2	50.0	48.9	35.4
指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながらよく効果的に組み合わせている(小・中16)	R7	66.7	60.2	52.2	25.0	43.0	37.4
	R6	72.2	54.3	48.1	37.5	40.0	36.0
	R5	50.0	45.3	43.2	25.0	35.6	29.2
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的によく参加している（オンラインでの参加を含む）(小・中19)	R7	44.4	30.6	32.9	37.5	27.6	28.3
	R6	33.3	25.9	27.1	12.5	23.4	24.3
	R5	11.1	22.3	24.6	12.5	21.9	20.8

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況					小・中学校の割合		
質問項目（ ）は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。(小・中25)	R7	94.4	94.7	89.3	87.5	93.4	88.2
	R6	77.7	92.0	88.2	75.0	91.9	88.4
	R5	83.3	88.1	88.9	100.0	93.6	88.0
授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行っている。(小・中26)	R7	83.4	86.6	80.4	87.5	88.2	82.8
	R6	88.9	83.1	78.3	75.0	86.4	82.7
	R5	66.7	80.4	79.0	87.5	86.7	81.6

令和7年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。(小・中27)	R7	94.4	91.9	89.2	100.0	93.4	90.8
	R6	88.9	89.8	87.2	75.0	94.9	89.7
	R5	94.4	90.2	87.7	100.0	89.7	88.8
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。(小・中34)	R7	94.5	92.4	86.9	100.0	89.1	80.3
	R6	100.0	92.5	85.7	100.0	85.1	78.6
	R5	77.8	92.2	85.6	100.0	91.8	78.6

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

4 学習規律、学習スキル等の指導の工夫(生徒指導) 児童・生徒の割合(%)

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒は、熱意をもって勉強している。(小・中7) ※R6はなし	R7	88.9	93.8	90.3	87.5	90.4	86.5
	R6						
	R5	66.6	91.7	91.1	87.5	90.6	88.7
児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。(小・中8)	R7	72.2	88.8	85.9	100.0	92.5	92.0
	R6	100.0	88.7	85.5	100.0	95.8	93.8
	R5	83.3	91.5	87.6	100.0	97.4	95.1
前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた。(小・中80)	R7	100.0	97.3	96.6	87.5	93.4	92.8
	R6	100.0	97.8	96.1	100.0	95.3	91.9
	R5	88.9	97.1	95.7	100.0	96.5	90.9
前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かした。(小・中82)	R7	94.4	93.5	90.4	75.0	86.4	84.0
	R6	94.4	93.5	87.8	87.5	88.5	82.8
	R5	88.9	92.8	90.6	100.0	91.5	84.4

5 特別支援教育における指導上の工夫

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度までに、調査対象学年の児童生徒に対する授業の中で、障害のある児童生徒を念頭に置いた指導上の工夫を行った。(小・中69)	R7	100.0	98.5	97.4	100.0	97.3	96.9
	R6	88.9	98.0	94.9	87.5	97.4	94.0
	R5	100.0	97.1	94.9	75.0	97.4	94.1

6 小学校教育と中学校教育の連携

前年度までに、近隣の中学校(小学校)等と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。(小・中72)	R7	44.5	72.5	65.3	25.0	68.4	71.7
	R6	50.0	72.8	64.0	37.5	73.6	69.0
	R5	27.8	69.2	60.6	50.0	75.2	66.8

7 家庭や地域との連携等

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった。(小・中77)	R7	100.0	95.7	93.3	100.0	89.5	89.0
	R6	100.0	89.1	88.9	100.0	83.0	84.1
	R5	94.5	81.5	86.1	100.0	82.0	79.3

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

小学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は国・県より上回っている。
- 学習指導要領の内容別に見ると、「思考力、判断力、表現力等」の平均正答率は、A・B・Cすべての区分で国・県を上回っている。しかしながら「知識及び技能」の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県を上回り、国を下回った。
- 問題形式別で見ると、平均正答率は「選択式」については国・県を上回った。また、「記述式」については、県を上回り、国を大きく上回った。「短答式」の正答率は、県を上回ったものの、国をやや下回った。

【課題】 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する。

1ーは、「話し合いの様子」として示されている発言の内容について適切に説明している文を選択する設問で、出題の趣旨は、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみるものである。

本市の正答率をみると、5つの学校で国・県の平均正答率を10ポイント以上上回ったものの、10ポイント以下下回った学校も6校あり、市内の学校間で差が大きい。解答類型別にみると、児童がインタビューの計画を立てている場面について、「複数の質問を関連付けている」と捉えていることはできているものの、「自分たちが聞きたいことを引き出そうとしている」と捉えることができなかったため、誤答となった児童が約4分の1いた。

指導のポイント

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
 - ・ 伝え合う内容を検討する際、聞くことにおいては、目的や意図に応じて、聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要である。
 - ・ 知りたいことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが重要である。
 - ・ 知りたいことを聞くという目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、児童が聞く時の場面や状況を確認することができるような活動を取り入れられるように計画していくことも必要である。

関 連

解説資料P10～P17、報告書P24～P39（授業アイデア例を含む）

小学校国語

【課題】学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

②四（ア）は、文中に示された「あつい日」を漢字で書く設問で、出題の趣旨は、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみるものである。

本市の正答率は県を上回ったものの、国を下回った。同じ読み方をする「熱」や「厚」と解答している児童が見られたことから、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。また、「温」と解答している児童も見られた。

指導のポイント

- 学年別漢字配当表の漢字について、当該学年までに配当されている漢字を読み、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができるようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
- ・ 書く目的や意図に応じて自分の思いや考えを伝えるためにも適切に漢字を使い分ける力が付くようにすることが大切である。
- ・ 特に今後はICT端末を使って文章を書く機会が増えることも予想される。そのため、同音異義語から文章に合う漢字を選ぶ力を付けていくことも大切である。
- ・ 児童同士で同音異義の漢字を用いて短文を作り、意味の違いに注目して話し合うなどの取組を行い、それぞれの漢字の意味を確認する活動を取り入れることも有効である。
- ・ 「同じ音で読む漢字」「似た形の漢字」「間違いやすい漢字」を集めてカードや短冊にして教室に掲示する等、児童が日常的に漢字に触れる環境を整えることも大切である。
- ・ 「文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと」や、「思考に関わる語句の量を増やし、文や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにできるようにすることが大切である。
- ・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使い、指導の効果を高めることが大切である。
- ・ 漢字を正しく読んだり書いたりするとともに、語彙を広げるためにICTを利用した語彙検索だけでなく、国語辞典や漢字辞典を利用して調べる習慣を付けられるようにすることも重要である。

関 連

解説資料P18～P27、報告書P40～P58（授業アイデア例を含む）

小学校国語

【課題】 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける。

③三（１）は、話し合い全体の要旨を踏まえたうえで、その内容を適切に示している箇所を選択する設問で、出題の趣旨は、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみるものである。

本市の正答率は県をやや上回り、国とほぼ同じである。また、無解答率は県・国をやや上回った。

指導のポイント

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
 - ・ 自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の言葉遣いがあることに気づき、自分たちの言葉への関心を深めることが重要である。
 - ・ 「必要な情報を見付ける」ためには、目的に応じて必要な情報は何か考え、情報を取捨選択したり、整理をしたり、再構成をしたりすることが必要である。
 - ・ 実生活においては、児童は、図表を含む様々な情報に触れている。その中から、必要な情報を見付けるためには、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切である。
 - ・ 要旨を捉えるために、全体の構成から事実と感想、意見などとの関係を押さえることが大切である。
 - ・ 学習指導に当たっては、文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結びつくのかを明らかにしたり、文章と図表等の関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう、深く指導することが大切である。
 - ・ 文章中の言葉と、図表などの言葉を線で結ぶなどして視覚的に理解できるようにすることも効果的である。また、資料が文章である場合も、図表やグラフと同じように丸や四角で囲んだり、線などでつないだりして、どの部分と結びつくのかを明らかにすることも有効である。
 - ・ ICT端末を活用し、それぞれがまとめたメモを一つの画面で共有することで、協働的に必要な情報であるかどうかを確かめたり、それぞれのメモを結び付けたり、比較したりすることが可能となり、新たな気づきが生まれやすくなる。

関 連

解説資料P28～P38、報告書P59～P77（授業アイデア例を含む）

小学校算数

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国より上回っている。県より大きく上回っている。
- 領域別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「A 数と式」「D データの活用」：全国・県より上回っている。
 - 「B 図形」：全国・県よりやや上回っている。
 - 「C 関数」：全国よりやや上回っている。県より上回っている。
- 評価の観点別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「知識・技能」「思考・判断・表現」：全国・県より上回っている。
- 問題形式別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「選択式」「短答式」「記述式」：全国・県より上回っている。

【課題】少数の加法について、共通する単位分数を見つける

大問3ー（2）では、異分母の分数同士のたし算についての問題。

3

ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまどめています。

ひろと

0.4 は 0.1 の4個分、 0.3 は 0.1 の3個分です。
 0.1 を①として下の図のように表します。

$0.4 + 0.3$ の計算は、 0.1 をもとにするので、 $4 + 3$ を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、 0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまどめます。

0.4 は $\frac{4}{10}$ の40個分、 0.05 は $\frac{1}{20}$ の5個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、 $\frac{1}{20}$ をもとにすると、 $40 + 5$ を使って考えることができます。

上の図にはすべて同じ数が入ります。空に入る数を書きましょう。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまどめています。

みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。

ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。
 もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、分数同士が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかが問う問題である。

指導のポイント

○ 分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目する

はじめに、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ の「もとにする数」が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ であることが問題文から読み取れる。分数の「もとにする数」になるのかを理解するようにしていく。

また、「もとにする数を同じ数にするとき」は通分する前の段階である。2つの分数のもとなる数は、 $\frac{1}{12}$ であり、分母を何倍にすると、それにもなって分子を何倍にすればよいなど、分数の仕組みについて、既習の整数の加法に帰着できるのかを考察する活動が考えられる。

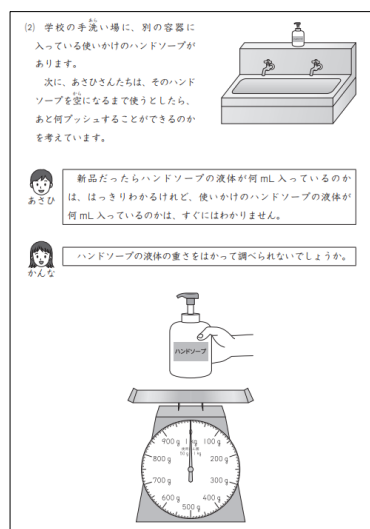
次に、共通する単位分数として、 $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{1}{12}$ の8個分と表すことができることから、 $9 + 8$ という整数の加法に帰着できることに気付くことができるようにすることが大切である。

関 連

解説資料P47、報告書P.84～（授業アイディア例を含む）

【課題】 伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察する

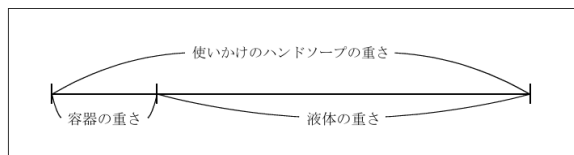
大問4ー(2)では、比例や反比例のきまりを自分の言葉で表したり、複数資料を根拠として結び付けたりする問題である。生活場面に即した数量関係を言語化して活用する学習が今後より重要となる。



指導のポイント

○複数の情報から状況に応じて必要な数量を見だし、それらの関係を数学的に表現できるようにする

日常生活に関わる問題を解決するためには、複数の情報を基に場面に応じて必要な数量を見だし、それらの数量の関係を捉えて式や言葉で表現できるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば本設問のように「使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何回プッシュできるのか」を考える場面が挙げられる。このとき、液体の量そのものではなく、代わりに用いることができる数量を見つけ出す活動が有効である。具体的には、実際の使いかけのハンドソープを提示し、ラベルに書かれた新品時の液体量の情報は使えないことを確認した上で、「液体の量が分からないとき、空になるまでのプッシュ回数を知るには何を調べればよいですか。」と問いかける。これにより、液体の量の代わりとして重さに着目できることに気付かせることができる。また、右の図のように、絵や図を用いて、測った重さには容器の重さも含まれていることを捉えられるようにすることも重要である。その上で、使いかけのハンドソープの重さ・容器の重さ・液体の重さの関係や、液体の重さと1プッシュ分の液体の重さの関係をもとに、空になるまでにあと何回プッシュできるのかを式や言葉の式で表すことができるようにすることが大切である。



関連

報告書P.88～（授業アイディア例を含む）

小学校算数

【課題】「□%増量」の意味を正しく理解する。

大問4ー(4)では、ボトルに表示してある「10%増量」を、増量“後”の量が基準(増量前)の何倍かで表せるかを問う問題。



指導のポイント

○示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにする

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるためには、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考えられるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば「10%増量」と表示された増量後のハンドソープの量が、増量前の量の何倍になっているのかを考えて説明する活動が考えられる。このとき、増量前の量を基準量とし、図を用いて基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりする。これにより、「10%増量」という表現について、「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにし、図や式、言葉を組み合わせて説明することで、数量の関係を捉えられるようにすることが大切である。

関連

報告書P.94～(授業アイディア例を含む)

小学校理科

本市の傾向と課題

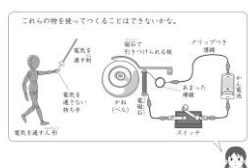
- 全体の平均正答率は、全国より上回っている。また、県とはほぼ同じである。
- 領域別に見ると、「粒子」「生命」「地球」の3領域において全国・県より上回っており、「エネルギー」においては、県とほぼ同じである。
- 評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、全国・県より上回っている。
- 問題形式別に見ると、平均正答率は「選択式」「短答式」「記述式」は全国より上回っている。

【課題】アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ

②(1)は、「アルミニウム、鉄、銅のそれぞれの性質について当てはまるものを選ぶ」という選択式の設問で、「電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」ことが趣旨である。

本市の平均正答率は、全国・県よりも上回っているが、正答率が全体の1割程度と設問の中、最も低かった。解答類型6を解答した児童が多いことから、金属の共通する性質として電気を通すという知識が身に付いていないと考えられる。

てつやさんといかりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、ファンシンドのおもちゃをつくることができないや、困っています。



電気を通す銅や磁石で引き付けられる板を、アルミニウム、鉄、銅のどれでつくろうかな。

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んででもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引き付けられる。
- 2 電気を通し、磁石に引き付けられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引き付けられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引き付けられない。

指導のポイント

- 学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関連付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが重要である。
- 第3学年の「磁石の性質」、「電気の通り道」の実験において、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多い。そのため、それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理しまとめるなどして、物質の性質について理解を深めることが必要である。

関連

解説資料P25～26、報告書P32～36

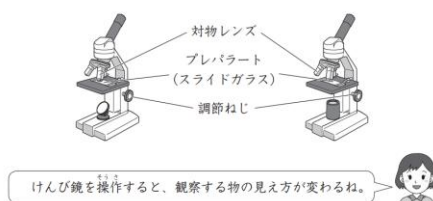
小学校理科

【課題】ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ

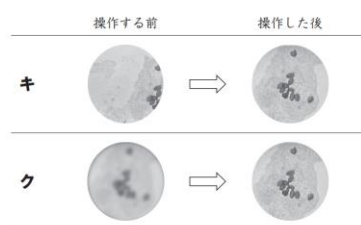
③(2)は、「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる」ことが趣旨である。

本市の正答率は、全国・県ともに下回っており、無答率については、全国よりも上回っている。解答類型2を解答した児童も多く、像を移動させるためにプレパラート（スライドガラス）を動かすことが理解できているが、ピントを合わせるために調節ねじを回す操作が必要であることが理解できていないことが分かる。また、解答類型4と解答している児童も1割程度おり「ピントを合わせるための操作」が身に付いていないことが考えられる。

てるみさんたちは、ヘチマの花粉をけんび鏡で観察することにしました。



(2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1から4の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 対物レンズをちがう倍率のものにした
- 2 プレパラートを動かした
- 3 明るさを調節した
- 4 調節ねじを回した

指導のポイント

- 観察・実験を安全に行うことやよりよい結果を得るために、1つ1つの操作の意味を理解し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることが重要である。
- 顕微鏡を操作する場面において、操作方法や手順をただ覚えるだけでなく、「対象が視野の中心にない」「ピントが合っていない」「視野が暗い」などの状態によってどのように操作すれば必要な像が得られるかなど、様々な状態を想定して実際に修正する操作体験を学習活動に取り入れていく必要がある。
- 実際に操作する学習活動では、適切に操作することを目的とし、観察する対象物を複数にするなど、顕微鏡を実際に操作する機会を増やすことも考えられる。日常的に顕微鏡での観察ができるよう、理科室だけでなく教室にも顕微鏡コーナーを設置するなどして、安全を確保した上で、随時観察ができる環境をつくるなどの工夫を行っていくことも考えられる。

関連

解説資料P40～41、報告書P49～50

小学校理科

【課題】レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く

③(4)は、レタスの種子の発芽の結果から、水、空気、温度のほかにも、発芽するための必要な条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみるという趣旨である。

本市の正答率は、全国より上回っているが、県より下回っているという結果となった。無回答の児童においては、全国、県よりも上回っている。解答類型2、解答類型6と解答している児童も多い。

解答類型2と解答している児童は、「日光」や「肥料」という具体的な条件に着目できているものの、「調べよう」「やってみよう」などの表現を用い、疑問ではなく、問題を解決するための手段や方法に言及していると考えられる。

(例)レタスの種子に日光を当て、発芽するか試してみよう

解答類型6と解答している児童は、〈条件〉の日光、肥料の中から1つ選んでいるが、疑問を示す趣旨での表現となっていないことが考えられる。

(例)レタスの種子の発芽に、日光は必要だ

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。



水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

指導のポイント

- 具体的な条件に着目できるように、1年生でアサガオを育てた経験や、これまでの生活の場面の中で植物を元気に育てるときに工夫した点を振り返り、表にして視覚化するなどして事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。
- 児童同士が話し合う中で、自分や他者の気づきを基に、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見だししていくような場面を設定することや、観察、実験などの方法を具体的に見通そうとすること、自分の考えをもつことができるようにすることが重要である。

関連

解説資料P45～46、報告書P53～56（授業アイディア例を含む）

中学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は全国・県より上回った。
- 学習指導要領の内容別で見ると、「話すこと・聞くこと」においては、全国より大きく上回り、県より上回っている。また、「書くこと」においては、全国とほぼ同じであり、県より上回った。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「読むこと」の設問で全国・県より下回ったものがある。
- 問題形式別に見ると、「選択式」「記述式」において、全国・県を上回った。

【課題】文脈に即して意味に注意しながら漢字を正しく使う。

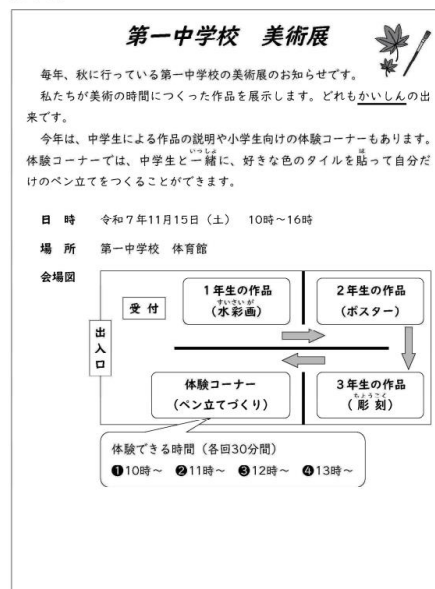
①一は、文脈に即して漢字を正しく使うことができるかをみる趣旨の問題である。

本市では、国と県と同様に「どれもちいしんの出来です。」の「かいしん」について、文脈からの意味を捉えることに課題が見られる。また、意味を捉えることはできたものの、「会心」「改心」「改新」のいずれを使うのが正しいのかを判断して選ぶことができなかったものと考えられる。

指導のポイント

- 文脈に即して意味を注意しながら漢字を正しく使うために、次のような学習内容が考えられる。
- ・ AIドリル等を活用しながら、字体、字形、音訓や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うことができるようにする。
- ・ 各学年の語彙や指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるようにする。
- ・ 同音異義語や同訓異字をいくつかの文脈で使い分けながら短文を書くなどの学習が考えられる。
- ・ タブレット端末を活用する際には、日本語入力システムの変換候補にある漢字の意味の違いを確認したり、必要に応じて辞書を引いて言葉の意味を確認したりすることを習慣付けるようにする。

【ちらし】



関連

解説資料P13、報告書P28～29

中学校国語

【課題】文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える。

③四は、文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる趣旨の問題である。

本市では、県と同程度の正答率であるが、国と比較すると、正答率は低く、無回答率が高い。また、国と県と同様に解答類型3の反応率が高いことから、文章の展開の効果について書くことができているが、理由を書く際、物語の内容を取り上げてはいるものの、本問で着目している展開を踏まえて書くことができなかったと考えられる。

指導のポイント

○文章の構成や展開について、根拠を明確に考えるために次のような学習内容が考えられる。

- ・作品によって、構成や展開の特徴が異なるため、取り上げる作品の特徴的な構成や展開に着目して、その効果について考える。
- ・登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することができるようにする。
- ・段落ごとの要点や役割を表にしたり、展開の変化をフローチャートなどで視覚化したりすることで、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることのできる工夫が大切である。
- ・文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながっているのかなど、自分なりの意味付けをする。
- ・生徒の発言を掘り下げながら「それはどの部分を読んでそう思ったのか？」など問い返すことで、根拠を見付け言語化していく学習活動が考えられる。
- ・文章の展開を予測しながら作品を読み、構成や効果について考える学習活動が考えられる。そのためには、これらの活動の意義を生徒が実感できるようにすることが大切である。

四
「木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

関 連

解説資料P36～37、報告書P60～63（授業アイデア例を含む）

中学校国語

【課題】読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること。

④一は、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる趣旨の問題である。

本市では、県と同程度の正答率・無回答率であるが、国と比較すると、正答率は低く、無回答率が高い。また、国と県と比較すると解答類型2、99の反応合計率が高い。解答類型2の反応が見られることから、「専門的」の「問」が誤っていることに気付いているが、正しく書くことができていないため、漢字の書きの知識が十分に身に付いていないものと考えられる。

指導のポイント

○読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えるために、次のような学習内容が考えられる。

- 書いた文章を読み返す必然性がある言語活動を設定することで、既習の事項を生かして文章を整えられるようにする。例えば、ペアやグループごとに、それぞれ書いた文章を互いに読み合うことで、読み手の視点に立って相互に確認する活動が考えられる。
- 手紙や作文等を書く際には、文章で使った漢字をタブレット端末や辞書を活用し、意味を確かめられるようにする。また、日本語入力ソフトの校正機能を活用し、誤字等を視覚的に確認することも考えられる。
- 同音異義語など、意味や表記を間違えやすい漢字を日頃から意識して使うようにするなど、学習した知識及び技能を生かして文章を整えるよう指導することが有効である。
- 「推敲」の学習指導では、中学校3年間を見通し、他の指導事項と関連付けて系統的かつ効果的な学習指導を行うことができるよう指導計画を作成することが重要である。

【手紙の下書きの一部】

先日
さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれました。ありがとうございました。大野さんを
はじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。
この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもって
いなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びら
が落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを
通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

関 連

解説資料P39～40、報告書P64～65

中学校数学

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国より大きく上回っている。県より上回っている。
- 領域別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「A 数と式」：全国より大きく上回っており、県より上回っている。
 - 「B 図形」：全国より上回っており、県より大きく上回っている。
 - 「C 関数」：全国・県より上回っている。
 - 「D データの活用」：全国・県より大きく上回っている。
- 評価の観点別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「知識・技能」：全国より大きく上回っており、県より上回っている。
 - 「思考・判断・表現」：全国・県より上回っている。
- 問題形式別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「選択式」：全国より大きく上回っており、県より上回っている。
 - 「短答式」：全国・県より大きく上回っている。
 - 「記述式」：全国・県より上回っている。

【課題】関数の関係を用いて数量を式で表現し、その意味を説明すること

大問6－(2)は、一次関数の式を立て、その変化の意味を数量関係から読み取り、式に表す力を見る問題である。

6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3, 6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12, 15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30, 33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。

「ある数量が比例して変化する」場合、グラフや表をもとに式で表すことが求められる。しかし、数量の対応を正しく読み取れず、座標の変化量や傾きの意味を捉えられない生徒が多く見られた。「傾き＝変化の割合」という視点が曖昧であり、「何を表している式か」を理解できていない点があった。このことから、数量関係を把握し、式・グラフ・表の三つを結び付けて理解する力を育てる必要がある。

指導のポイント

○式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする

文字を使った式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにすることが大切である。本設問を使った授業では、まず「連続する2つの3の倍数の和」を文字式で表して考える場面を設定する。具体的には、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ とし、その和を計算すると $6n+3$ となる。この式を変形し、例えば $3(2n+1)$ とすると「 $3 \times (\text{整数})$ 」の形になり、連続する2つの3の倍数の和は必ず3の倍数になることが分かる。さらに、 $2(3n+1)+1$ と変形すれば、「 $2 \times (\text{整数}) + 1$ 」の形から奇数であることが分かる。このように、式の変形を通して新しい特徴を見いだせるようにすることが大切である。また、 $3(2n+1)$ の「 $2n+1$ 」に注目すると「奇数の3倍」になることも読み取れる。このように、見いだしたことを「前提」と「結論」をはっきりさせて表現できるように指導することが重要である。

関 連

解説資料P17～、報告書P41～

【課題】図形の条件から必要な関係を見出し、筋道を立てて証明すること

大問9－(2)は、与えられた図形の性質をもとに、特定の関係を説明・証明する問題である。

9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明 1

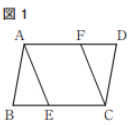
平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $AF \parallel EC$ ……①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②

仮定より、
 $DF = BE$ ……③

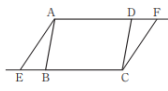
②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ……④

④より、
 $AF = EC$ ……⑤

①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形AECFは平行四辺形である。



(2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直す必要がある部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直さない。



ア 平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $AF \parallel EC$ ……①

イ 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②

ウ 仮定より、
 $DF = BE$ ……③

エ ②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ……④

オ ④より、
 $AF = EC$ ……⑤

①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形AECFは平行四辺形である。

「なぜその結論になるのか」など、根拠を積み上げて説明する経験が少ない。図形の性質をつなげて活用する場面や、途中の考えを文章で表現する活動を日常的に取り入れることが求められる。

指導のポイント

○元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるようにする

証明を基にして条件を変えた場合の証明を考える場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や変わる関係を見いだすことが大切である。これにより、元の証明を評価・改善し、条件を変えた場合の証明ができるように指導することが求められる。本設問で授業を行う際には、証明1と図2を対応させて読み、証明1の①～⑤の中で「変わらない関係」と「変わる関係」を確認する活動を取り入れるとよい。例えば、②「 $AD = BC$ 」、③「 $DF = BE$ 」は図2でも成り立つため、書き直す必要がないことを確かめることができる。一方で、証明1では④「 $AD - DF = BC - BE$ 」を根拠に⑤「 $AF = EC$ 」を示しているが、図2には④の関係を表す辺がないことに気付くことが大切である。そこで、④を「 $AD + DF = BC + BE$ 」に書き直す必要があるが、⑤はそのまま使えと判断できる。このようにして、条件を変えても成り立つ部分と書き直す必要のある部分を見分けながら、条件を変えた場合の証明を組み立てられるように指導することが重要である。

関連

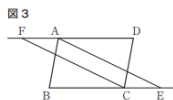
解説資料P42～、報告書P65～、P73～（授業アイディア例を含む）

中学校数学

【課題】複数の図形条件を組み合わせ、論理的に証明を完結させること

大問9-(3)は、与えられた条件や図形の性質を用いて、ある関係が成り立つことを証明する問題である。

(3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $FA \parallel CE$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC$$

仮定より、

$$DF = BE$$

②、③より、

$$DF - AD = BE - BC$$

④より、

$$FA = CE$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形FCEAは平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

図4

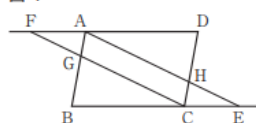


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

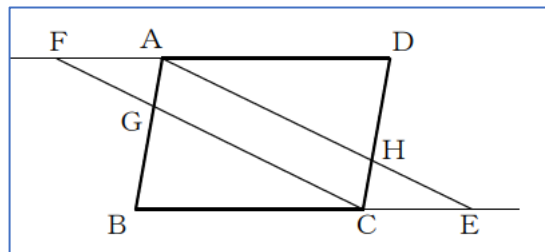
多くの生徒は、条件を一部だけ使ったりするなど、最後まで証明することができなかった。根拠を順序立てて積み重ねる力や複数の事実を関連付けて活用する経験の不足が背景にある。図形の条件を整理して選択し、段階的に論理を組み立てる活動を重ねることが重要である。

指導のポイント

○方針を立て、証明することができるようにする

証明ができるようにするためには、仮定や仮定から分かること、結論を導くために必要なことを明らかにし、証明の方針を立てることが大切である。その方針に基づき、推論の過程を数学的に表現できるように指導する必要がある。本設問を授業で扱う際には、まず証明すべき事柄をはっきりさせ、その根拠を探す活動を取り入れるとよい。

例えば、右の図「四角形AGCHが平行四辺形になる」ことを示すには、平行四辺形の成立条件を手がかりに、仮定や証明2の内容を基に考える。具体的には、「 $AG \parallel HC$ 」「 $GC \parallel AH$ 」を示す方針を立てることになる。その上で、仮定「四角形ABCDは平行四辺形である」と、証明2で示された「四角形FCEAは平行四辺形である」という事実を使って、それぞれの根拠を「 $AB \parallel DC$ 」「 $FC \parallel AE$ 」と結び付ける。このように、根拠や成り立つ事柄を言葉や記号で表しながら証明できるようにすることが大切である。



関連

解説資料P42～、報告書P69～、P73～（授業アイデア例を含む）

中学校理科

本市の傾向と課題

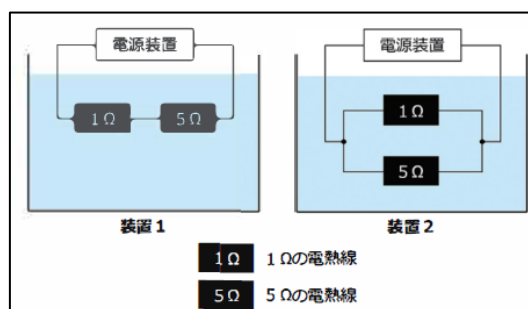
※**1**共通問題に見られる傾向と課題

- 全体の平均正答率は全国よりやや上回っており、県とほぼ同じである。
- 領域別に見ると、「エネルギー」は全国とほぼ同じで、県より上回っている。「粒子」は全国よりやや上回っており、県よりやや下回っている。「生命」は全国よりやや上回っており、県より上回っている。「地球」は全国とほぼ同じであり、県より下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「知識・技能」は全国及び県よりやや上回っており、「思考・判断・表現」は全国より上回っており、県よりやや上回っている。

【課題】

2つの電熱線が直列の場合と並列の場合で、合成抵抗の大きいつなぎ方とより早く水を温めることができる回路のつなぎ方を選ぶ。

1-(1)の設問の趣旨は、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかをみることである。電熱線で水を温める学習場面において、2つの電熱線を直列につないだ場合と並列につないだ場合とで回路全体の抵抗はどちらが大きくなるか、より早く水を温めることができるのはどちらの回路かを問う選択式の問題である。



本市の平均正答率は、全国より下回っており、県より上回っている。正答の次に、装置2の方が回路全体の抵抗が大きく、装置1の方が早く水が温まると選択している生徒が多いことから、電圧を加えたときに発生する熱量は、抵抗の小さい方が発生する熱量が大きいという知識は身に付いているが、抵抗を並列につないだ場合の合成抵抗は、それぞれの抵抗の大きさより小さくなるといった基礎的な知識の理解が十分ではない生徒が多いと考えられる。

指導のポイント

- ・ 回路全体の抵抗の求め方や熱量の求め方を習得することのみを目的とするのではなく、発熱する熱量と直列回路・並列回路における合成抵抗とを関連付けて概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられる。
- ・ 実験で使用する抵抗の数を増やしたり、あらかじめ様々なつなぎ方でつないである抵抗の合成抵抗を調べ、その法則性を見いだしたりする活動を行う。
- ・ 電熱線で水道水を温めて蒸留し、精製水を製造するなど、身近な生活と関連をもてるようにし、生徒の興味・関心を高めるようにする。

関連

解説資料P14～15、報告書P25～27

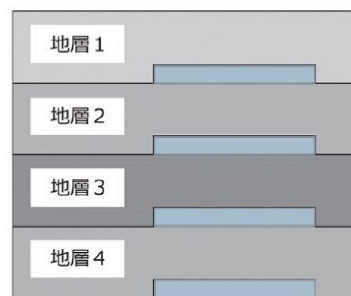
【課題】

地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさから、堆積した4つの地層間の、どの地層の境目から水がしみ出すかを選ぶ。



1-（3）の設問の趣旨は、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみることである。露頭の位置から水が染み出るかを観察する場面において、4つの地層について、それぞれの地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさを基にして、どの地層の境目から水がしみ出すかを選択式で問う設問である。

【地層の境目から水のしみ出ている露頭】



本市の平均正答率は、全国よりやや上回っており県よりやや下回るという結果となった。正答の次に、地層3と地層4の境目から水がしみ出すことを選んでいる生徒が多く、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することに課題があると考えられる。

指導のポイント

- ・小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析し解釈する学習場面を設定することが考えられる。
- ・小学校でどのような内容を学習したかを授業者が丁寧に把握して、授業を通して生徒にフィードバックし、生徒の既習事項を確認した上で授業をデザインする。
- ・水槽等の大きな入れ物に「礫」「砂」「泥」を入れて堆積実験を行い、地層を構造する粒の大きさとすき間の大きさを観察しやすくする工夫をする。
- ・問題文に地層2は水が通り抜け、地層3は水が通り抜けにくいという水に関する条件の違いに関する記述があることから、「調べる条件を1つだけを変えて、他の条件を整えて調べる」という条件制御を意識しながら実験計画を立てる学習場面を設定することが考えられる。

関 連

解説資料P18～19、報告書P38～40

中学校理科

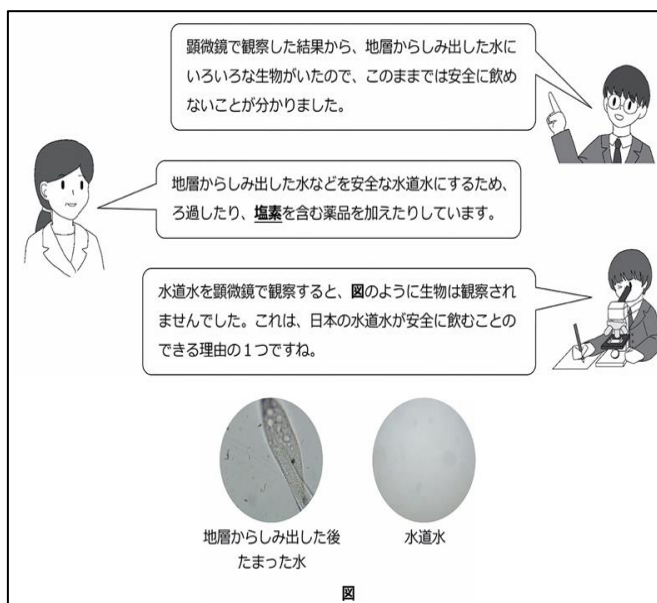
【課題】

塩素の元素記号を解答する。

1－（５）の設問の趣旨は、塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみることである。設問の内容としては、塩素の元素記号を短答式で問う設問である。

本市の平均回答率は、全国・県共に下回る結果となった。正答の次に、塩素以外の元素記号や化学式で解答している生徒が多く、塩素の元素記号ではなく、塩素以外の元素記号や化学式で表している生徒が多い。このため、塩素の元素記号についての知識及び技能が身に付いていないと考えられる。平成27年度中学理科

1－（１）において、塩化ナトリウムを化学式で表すこと、平成30年度中学理科 8－（１）においてアルミニウムを元素記号で表すことを選択式で問う設問があり、本市の平均回答率は、全国・県共に上回っていた。これらの結果から、今年度は元素記号についての知識及び技能に関する基礎的知識の定着に関する課題が見られる。



指導のポイント

- ・スポーツ飲料や洗剤の成分表示の中に元素記号が記載されていることがあることに気付けるようにし、身の回りの生活の中で元素記号が使われていることを実感できる学習場面を設定することが考えられる。
- ・物質やその変化を記述したり理解したりするために、元素記号を用いることは有効であることに気付けるように授業をデザインする。
- ・元素記号と関連する物の写真やイラストを掲示し、視覚的に結び付けることで定着を図る工夫が考えられる。
- ・元素記号と化学式の違いの理解が難しい生徒には、デコレーションボール等を元素に見立てる等、具体物を使って、元素記号が元素を表す記号であり、化学式が物質の構成を元素記号で表したものであるということを理解できるようにするなど、学習場면을工夫することが考えられる。

関 連

解説資料P 21、報告書P 46～47